

1. 潜伏キリシタン世界遺産センターの設置等（石垣上広場）

南蛮貿易のために港と町がひらかれ、「岬の教会」や「被昇天のサンタ・マリア教会、司教館・神学校」が実在した場所であり、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産センターを設置してほしい。現在は仮センターが出島ワープ2階に置かれているが、観光ルートからやや外れた場所にあるため、目立ちにくい。なお、長崎奉行所・西役所や長崎海軍伝習所、上海航路などの資産を排除するものではなく、一連の歴史の流れとして紹介することが好ましいが、「キリシタン関連遺産」は県内各地に点在する関連資産のゲートウェイ機能を持つため、是非必要であると考えます。

建物内外の意匠、展示等の内容については、「情報発信機能（歴史等）・交流支援機能」の詳細を検討する中で定められると思料するが、現時点では以下を提案する。

（1）展示内容に関する提案

- ・被昇天のサンタ・マリア教会の時代を紹介する時代体験ゾーン

ー内容と展開ー

- ① マカオからのポルトガル船が入港する映像
- ② サンタ・マリア教会の周辺で宣教師や商人で賑わう長崎のまちの様子
- ③ 見学者のアバターを使って当時の疑似体験をできる工夫
- ④ 神学校のゲーテンベルグ印刷機やド・ロ版画などでの印刷体験



（参考：南蛮船の入港で賑わう長崎港と被昇天のサンタ・マリア教会）

(2) 屋外オブジェの設置

・「からくり時計」的モニュメントの設置

「被昇天のサンタ・マリア教会」には1603年に時計塔（櫓）が設置され、時刻になると3つの鐘が奏でるチャイムを聞くのを市民たちは楽しみにしていた」とされる。そこで集客の目玉として時計台を設置し、定期的に鳴らすことで集客を図る。

イエズス会年報に記載されている「時計」の仕様は、

- ①文字盤がローマ数字と干支標記、②カレンダー時計、③三つの鐘のチャイム時計

—参考—



人吉駅前時計



松山市坊ちゃん時計



プラハ天文時計



大村市天正遣欧使節時計

* 「大村市天正遣欧使節時計」は、1990年遣欧使節帰国（1590年）400年記念祭で設置。

製作費用等の詳細は不明。現在も稼働中。

(3) 「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の主要教会・遺跡等の紹介

動画で、点在する各教会・遺跡を紹介するコーナー

各地の教会等近くにモニターカメラを設置し、操作してリアル映像を見るコーナー

⇒ なお、モニターカメラを利用して現地管理者不在時の「観光客の悪戯」防止などを考慮し「24時間監視機能」を有するシステムの開発とする必要が有る。結果、遠隔地にある資産の保全管理手法の検討等にも寄与し、定期的な「見直し」及びユネスコ審査時のアピールポイントにすることも展望できる。

2. 屋外型の交流スペース (石垣上 又は 石垣下)

石垣上ないし石垣下（出来れば石垣上）の「交流スペース」として、市民や観光客が気軽に使える「半屋外型小ホール」（雨天対応型ステージ、客席 50～200）が欲しい。上記の屋外オブジェとの近接が望ましいか。

なお、舞台正面が、①「南西・西」を向くか（海を目の前にする）、②「北東・東」を向くか（海を背中にする）によって使い勝手が異なるので、その向きを十分検討すべきと思われる。



（事例：東京・井の頭公園の野外ステージ）

—石垣上の場合—

○「広場（芝生）」「屋外型オブジェ」との一体性を考える。

「観客数 50 名以内」「大道芸」「街中ピアノ」のような「自由な発表」スペース。予約制とするが「空」の場合、その場申し込み可。

—石垣下の場合—

○「石垣上」からの観客視線を考える。

「観客数 200 名以内」「ミニ発表会」「地域イベント」のような「発表場」スペース。出島の景観保全上、ホール天井の高さ制限が必要で、観客席は「階段」下の有効利用も検討課題。使用は全て予約制。ある程度の音響・照明施設は貸出とし、「持ち込み資材も」可。

—その他—

TV局・医療機関等が隣接しており、「騒音」には十分に配慮する必要がある。

ミニ FM 局の開設等「地域限定」対策が必要である。